茨城内水試　かわら版

No. 177（2006 年 5 月 31 日発行）

茨城県内水面水産試験場
茨城県行方市玉造甲 1560
TEL: 0299-55-0324　FAX: 0299-55-1787
E-mail: naisuishi@pref.ibaraki.lg.jp

那珂川においてコクチバスの産卵を確認

コクチバス（スモールマウスバス）は北米原産のスズキ目サンフィッシュ科オオクチバス属に属する外来種で，平成 17 年（2005 年）6 月に施行された外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）にかかる特定外来生物に指定されている魚類です。現在，特定外来生物に指定されている魚類は，本種のほかにオオクチバスやブルーギルなど合計 13 種になります。また，本種は同属のオオクチバスよりも河川での生活に適応することができることから，全国各地の本種の生息が確認された水域では，水産資源，あるいは生態系への影響が懸念されるとともに駆除活動が行われているところもあります。

コクチバスの生態的特徴をいくつか紹介すると，まず，産卵期は春から初夏にかけてで，水温 15℃以上での産卵が一般的です。産卵場所は水深の浅いところで，オスが水底を掃除して産卵床をつくり，卵とふ化後体長 10 mm 前後に成長するまでの間，仔魚を守ります。また，コクチバスの餌生物としては，魚類だけでなく甲殻類や水生昆虫など様々なものがあげられ，生息環境や季節で変化します。

図 1. 採捕されたコクチバス
（上：体長 12.0cm，下：13.6cm）

このようなコクチバスですが，これまで茨城県では，1999 年に霞ヶ浦への流入河川である桜川でただ 1 個体が確認されているに過ぎませんでした（茨城県内水面水産試験場，1999）。ところが平成 18 年 5 月 16 日，城里町地内の那珂川で投網による魚類調査を行っていたところ，コクチバスが 2 個体採捕されました（図 1）。また，採捕地点の周辺において産卵床の有無を調査した結果，採捕地点上流で 2 か所発見されました。発見時には，オスが産卵床を保護している姿が観察されるとともに，産卵床内では，ふ化仔魚が確認されました（図 2）。これらのことは，この地で本種が再生産を行っていることを明確に示すものです。なお，調査当日に確認された仔魚については手網により採集し，標本としています。

図 2. 産卵床で採集した脊索長 7.6mm のコクチバス仔魚.

ところで，本種はなぜ那珂川で確認されたのでしょうか。コクチバスの侵入要因には，人為的な放流や水系拡散が考えられます。とくに水系拡散については，栃木県内の那珂川やその支流の荒川で本種の採捕が報告されていることから，その可能性も考えられます（武田，2002）。

いずれにしても，コクチバスは本来，日本に存在しなかった魚類です。一度変わってしまった自然生態系を元に戻す行為には大変な困難をともないます。このような事実を，皆さんはどう思われますか。

（河川部・荒山和則）

参考文献

武田維倫．2002．栃木県水産試験場研究報告，45: 81.
茨城県内水面水産試験場．1999．内水試かわら版 No. 164.